

福岡県

生成 AI 検討プロジェクトチーム

生成 AI 庁内利活用ガイドライン

令和6年11月6日 第2.0版

改訂履歴

版数	発行日	改訂履歴
第 1.0 版	令和 5 年 9 月 14 日	初版発行
第 1.1 版	令和 5 年 12 月 27 日	教育庁を対象に追加
第 2.0 版	令和 6 年 11 月 6 日	専用環境導入に伴う見直し ガイドラインの適用範囲の見直し

目次

はじめに	3
1. ガイドライン策定の背景	3
1. 生成 AI とは	3
2. ガイドラインの策定	3
2. ガイドラインの位置づけ	4
1. 対象とする生成 AI サービス	4
2. ガイドラインの適用範囲	4
3. ガイドラインの改訂	4
生成 AI を活用するメリットとリスク	5
1. 行政事務に生成 AI を活用するメリット	5
1. 働き方改革	5
2. サービスレベルの向上	5
3. 企画立案能力の向上	5
2. 行政事務に生成 AI を使用するリスク	6
1. 誤情報や偽情報の拡散	6
2. 著作権の侵害	6
3. 情報漏洩	6
4. 部落差別をはじめとする人権侵害	7
生成 AI の行政事務への活用の方向性	8
1. 生成 AI の行政事務での活用における原則	8
1. 使用対象者の限定	8
2. 使用対象機能の限定	8
3. 機密情報の取扱いの限定	9
4. 生成内容の信頼性の確保	10
効果的な活用に向けて	11
1. 生成 AI の活用例	11
2. 生成 AI 活用のポイント	12
3. QT-GenAI の活用支援機能	13
ガイドライン対象外の生成 AI 使用について	15
1. ガイドラインで定めない生成 AI の使用を考える場合	15
2. 使用の際に注意すべきポイント	15
1. 約款型外部サービスの使用について	15
2. 生成されたコンテンツの取扱い	15
3. 機密情報の取扱い	15
4. 生成内容の信頼性の確保	16
5. 問題・事故が起きた場合の責任	16
謝辞	17

はじめに

1. ガイドライン策定の背景

1. 生成 AI とは

近年、人工知能(AI)の中でも「生成 AI」と呼ばれる技術が注目されています。生成 AI とは、画像や音楽、文章など様々なデータを学習し、新しいコンテンツを生成することのできる AI です。通常の AI は与えられたデータを分類したり分析・推論したりすることを得意としていますが、生成 AI は与えられたデータから新しいものを作り出すこともできるため、よりクリエイティブな領域での活用が期待されています。

2. ガイドラインの策定

生成 AI は、有効に活用すれば、業務の効率化や生産性の向上、県民サービスの向上につながる可能性があります。

一方、使用するサービスによっては入力された内容を学習し、その内容を他者への情報生成に用いる可能性があるため、情報漏えいに繋がるおそれがあります。このほか、著作権の侵害や回答の正確性や公平性といった課題もあります。

庁内で活用するには、個人情報や非公開情報の漏えいのリスクや、生成された情報に不正確な情報が含まれる場合の対応など、活用のためのルールや安全に使用するためのシステム環境の整備が必要です。

このため福岡県 DX 戦略推進委員会の個別施策を検討する組織として、外部有識者として情報科学分野や法律分野の専門家を加えた「生成 AI 検討プロジェクトチーム」を設置し、行政事務における生成 AI の活用に関するメリットや危険性を調査・分析し、その結果をもとに、本ガイドラインを作成しました。

2. ガイドラインの位置づけ

1. 対象とする生成 AI サービス

本ガイドラインが対象とし、本県行政事務への活用を認める生成 AI サービスは株式会社 QTnet が提供するチャット型テキスト生成 AI サービス「QT-GenAI」となります。QT-GenAI を選定した理由は以下のとおりです。

- ・ 生成 AI とのチャット内容が生成 AI 自身の学習に利用されないため、機密性の高い情報の取り扱いができる。
- ・ サービス提供型のソフトウェア(SaaS)であり、定期的な機能アップデートが行われるため、流行の変化に柔軟かつ迅速に対応できる。
- ・ 生成 AI が本県独自情報を参照し回答することもできるため、業務適正が高い。¹

原則として、本県行政事務で使用可能な生成 AI は QT-GenAI のみです。これまでに利用を許可していた Microsoft 社の「Copilot(旧:BingChat)」を含め、QT-GenAI 以外の生成 AI サービスの利用は控えてください。

2. ガイドラインの適用範囲

本ガイドラインは福岡県の以下に属する職員および業務が対象となります。

- ・ 知事部局
- ・ 企業局
- ・ 議会事務局
- ・ 人事委員会事務局
- ・ 監査委員事務局
- ・ 労働委員会事務局

3. ガイドラインの改訂

本ガイドラインは環境の整備状況や社会情勢の変化に応じて、随時アップデートしていきます。最新のガイドラインや関連する法律や規則に従って使用してください。

¹ 生成 AI に本県独自の資料を参照させるためには事前の準備・対応が必要となります。参照できる情報は随時更新していきますので、別途お知らせいたします。

生成 AI を活用するメリットとリスク

1. 行政事務に生成 AI を活用するメリット

1. 働き方改革

「働き方改革」は、労働者の健康と生産性を向上させるために、業務の効率化と業務品質の向上を目的としています。生成 AI は、この改革に大きく寄与することができます。例えば、生成 AI は、人間がより効率的に仕事をするために、自動化されたタスクやプロセスを提供することができます。また、人間がより高品質な仕事をするために、文書の校正や編集などのタスクを担当することもできます。

2. サービスレベルの向上

生成 AI は、人間の言葉を理解し、適切な文章を生成することが可能です。生成 AI の活用により、県民の皆様や福岡県にお越しになる皆様へのサービスレベルを向上させることができます。例えば、コンテンツマーケティングや文書翻訳です。これらのサービスは、人間に依存すると時間やコストがかかりますが、生成 AI なら高速かつクオリティの高いコンテンツを生成できます。これにより、今以上に魅力的かつ効果的なサービスの提供を実現します。

3. 企画立案能力の向上

生成 AI は、キーワードやテーマから関連するアイデアや言葉を自動生成し、マインドマップなどで見せてくれるため、思考の流れを可視化し、構造化できます。さらに、新しい取組みの検討にも役立ちます。キーワードを入力すると、生成 AI が取組みの概要や目的・戦略などを文章化します。自分のアイデアに生成 AI の意見を加えることで、枠組みにとらわれない新しい視点や発想が得られます。このように、生成 AI は企画立案能力を高めるツールとして活用できます。

2. 行政事務に生成 AI を使用するリスク

生成 AI は多様な分野での効果的な活用が見込める一方で、様々な危険性が潜んでいます。そのため、生成 AI を活用する際には、倫理的かつ責任ある使い方をすることが重要です。

1. 誤情報や偽情報の拡散

生成 AI により作成された事実と異なる情報や偏った意見を拡散することで、人々の認識や判断を誤らせる危険性があります。また、ディープフェイクと呼ばれる偽の画像や動画を作成することで、人々の信用や名誉を傷つけたり、犯罪やテロに悪用されたりするおそれがあります。これらは、個人や団体の権利や安全だけでなく、国際関係や社会秩序にも悪影響を及ぼす可能性があります。生成 AI を活用する際には、誤情報や偽情報に対して注意深くなり、その出所や信憑性を検証する必要があります。

2. 著作権の侵害

生成 AI の学習データには、インターネット上のテキストデータや画像・音楽データが含まれる場合もあります。その中には著作権が保護されているものも含まれます。生成 AI が出力したコンテンツについて、既存の著作物との間で類似性および依拠性が認められる場合には、著作権法に違反する可能性があります。生成 AI による著作権侵害は、クリエイターの創作活動や権利を脅かし、文化的多様性や社会的公正性にも影響を与えるおそれがあります。生成 AI が作成したコンテンツがオリジナルであるかどうかを判断するのは困難ですが、生成 AI を活用する場合には、著作権の問題に注意し、著作権法や関連するガイドラインを遵守する必要があります。

3. 情報漏洩

生成 AI を活用する過程でデータが学習に用いられることを通じて第三者に流出する可能性があります。例えば、生成 AI に行政や団体の内部資料や特許情報などを入力してレポートやプレゼンテーションを作成した場合、結果として、その情報が第三者に渡ってしまうおそれがあります。データの流出は、個人や団体の機密情報や知的財産権の侵害につながり、経済的な損失や信用の低下を招くおそれがあります。生成 AI は効率的なツールですが、データの保護に注意し活用する必要があります。生成 AI に入力するデータは、秘匿性の高い情報でないことを確認し、必要な場合は暗号化や匿名化などの対策を施すことが求められます。

4. 部落差別をはじめとする人権侵害

インターネットの普及に伴い、その匿名性や情報発信の容易さから、インターネット上での名誉やプライバシーの侵害、差別を助長する表現の書き込みなど人権に関わる様々な問題が発生しています。特定の個人や団体を誹謗中傷し、名誉を毀損する行為は違法となり得る行為であり、民事責任だけでなく、刑事責任を負うこともあります。

とりわけ、部落差別については、掲示板や SNS、動画投稿サイトなどにおいて、同和地区出身者であるということを理由として個人や団体を誹謗中傷したり、特定の地域を同和地区であるとしたりする書き込み等が氾濫している状況です。

生成 AI については、インターネット上の情報を収集することから、ネット上の悪意のある情報を収集し人権侵害につながる内容を回答することや、その回答を利用者が信じ込む危険性があります。実際に、生成 AI を悪用し、「同和地区の所在地」に関する情報を収集する事案も発生しております。

こうした行為は、差別を助長、拡散するものであり、決して許されるものではありません。

また、本県では、福岡県個人情報の保護に関する法律施行条例において、「同和地区の所在地」を含む記述等を「個人情報の保護に関する法律」上の「条例要配慮個人情報」として規定していることから、県職員は、不当な差別、偏見その他の不利益が生じないようにその取扱いには特に配慮を要さなければなりません。

これらを踏まえ、生成 AI を活用する際は、一人ひとりが、憲法や法令を守ることはもちろん、県の職員としての責任を十分に理解し、「生成 AI を悪用した差別を許さない」という認識のもと、情報の収集や作成を行う必要があります。

生成 AI の行政事務への活用の方向性

1. 生成 AI の行政事務での活用における原則

以下の原則は本ガイドラインが本県行政事務への活用を認める生成 AI サービス「QT-GenAI」の使用を前提としたものです。やむを得ずその他の生成 AI サービスを使用する場合には、チャプター4「ガイドライン対象外の生成 AI 使用について」の内容を十分に確認したうえで使用するよう努めてください。

1. 使用対象者の限定

以下全てに該当する職員は、QT-GenAI を行政事務に利用可能です。

- ・ ガイドラインの適用範囲に所属する職員
- ・ 職員番号が数字、A、B、Y、Z から始まる職員（派遣職員、会計年度職員などを含む）

上記対象職員が QT-GenAI を利用したい場合には、簡易申請システムを用いた情報政策課への利用申請が必要となります。利用申請方法については別途、通知をご参照ください。

2. 使用対象機能の限定

QT-GenAI ではテキスト以外にも、画像などのコンテンツを生成することができますが、以下の理由により、テキスト以外のコンテンツ生成機能を制限しています。

- ・ 著作権侵害の有無を判断することが困難
- ・ 社会的感情や先入観から批判が集まる可能性がある

生成 AI は既存の著作物を学習に利用しているため、生成されたコンテンツには、著作権上の問題が無い場合であっても、社会的な感情やイメージから批判が集まる場合があります。²

特に画像や音声・動画については既存のクリエイターやアーティストに対する影響が懸念されることが多いコンテンツです。そのため、生成されたコンテ

² 【参考情報】海保が生成 AI でイラスト作成のパンフレットに批判集まり配布を中止 著作権法の改正求める声も (<https://newsdig.tbs.co.jp/articles/-/1092740>)

ソツは著作権上の問題が無いかの確認に加え、それを取り扱うことでの社会的感情の考慮が必要です。

3. 機密情報の取扱いの限定

QT-GenAI で取扱いを許可する情報は、対策基準で定める「機密性 2」および「機密性 3」の情報に限定します。「機密性 1」に分類される個人情報の取扱いは一切禁止します。QT-GenAI は入力した情報が AI の学習に使われることはありませんが、不用意な取扱いによる情報の流出・漏洩を防ぐためです。

個人情報漏洩した場合、個人の権利や安全が脅かされるおそれがあるため、「機密性 1」の情報の取扱いを一切禁止します。

表 2 機密性による分類

機密性 1	福岡県情報公開条例第 7 条第 1 項各号の非開示情報のうち、個人情報に該当する情報 ³
機密性 2	機密性 1 を除く非開示情報及び公開していない情報
機密性 3	上記以外の情報

³ 個人情報に該当する情報には「福岡県個人情報の保護に関する法律施行条例」に規定する「条例要配慮個人情報」も含まれます。

4. 生成内容の信頼性の確保

生成 AI が生成するコンテンツは必ず使用者がその信頼性を確認し、責任を持って使用してください。生成 AI は、与えられた情報や条件に対し、学習したデータに基づき適合する可能性の高いコンテンツを生成します。そのため、情報の偏り、不正確さや不適切さなどのリスクを孕んでいる可能性があります。コンテンツの内容を鵜呑みにすると、不正確な判断や誤った行動を招くおそれがあります。したがって、生成 AI が生成したコンテンツに対して、少なくとも以下の観点により適切であると確認できるまで使用しないでください。

表 3 生成されたコンテンツに対する確認観点

#	確認項目	確認の観点
1	正確性	生成 AI が作成したコンテンツが事実に基づいており、誤りがないこと。
2	妥当性	生成 AI が作成したコンテンツが目的や状況に適合しており、不適切でなく情報の偏りがないこと。
3	一貫性	生成 AI が作成したコンテンツが内部的に矛盾しておらず、外部的にも他の情報源と整合していること。
4	説明可能性	生成 AI が作成したコンテンツに対してユーザーがその内容や根拠を説明できること。

効果的な活用に向けて

1. 生成 AI の活用例

生成 AI の利活用範囲は広く、様々な業務への利活用が見込めます。以下に、テキスト生成 AI の行政事務への利活用案を示しますので、参考にしてください。本利活用案は当県における利活用範囲を限定するものではなく、あくまで活用方法の一例となります。

1. 文書案の作成

入力されたキーワードや条件に基づいて文章案を作成できます。例えば、メール文面の作成や、資料作成の支援に活用できます。

2. 文章の要約

入力された文章や URL に基づいて、要約文を作成したり、要点を整理したりすることができます。例えば、ニュース記事や議事録などを要約し情報共有を図ることが考えられます。

3. 資料構成の提案

入力されたテーマや目的に基づいて、資料の構成案・目次案を提案することができます。例えば、ガイドラインやレポートなどの資料作成への活用が考えられます。

4. 文章の添削・調整

入力された文章に対して、添削や文章表現を調整することができます。例えば、資料の誤字脱字のチェックや利活用シーンに合わせた表現方法の調整などが考えられます。

5. 翻訳

入力された文章の、翻訳文を作成することができます。例えば、英語や中国語などの外国語資料を翻訳しての情報収集などが考えられます。

6. 企画アイデアの検討支援

入力したテーマや目的に基づいて、企画アイデアの検討を支援することができます。例えば、広報企画や庁内施策の立案などへの活用が考えられます。

7. ツールの使い方の指南

生成 AI は、ツールの使い方を指南することができます。例えば、Excel や PowerPoint などの Office ソフトなどの学習や作業支援に用いることが考えられます。

8. コード作成

入力された仕様や機能に基づいて、コードを作成することができます。例えば、Excel マクロの開発や、データ分析などへの活用が考えられます。

2. 生成 AI 活用のポイント

1. チャット型のテキスト生成 AI であることを理解する

QT-GenAI などのテキスト生成 AI は主にチャットでのやり取りを行うツールです。そのため、一問一答の形式でコンテンツを生成するのではなく、会話形式でコンテンツの生成が行われます。単発の指示で終わらずにやり取りを重ねることで、望ましい回答を得たり、回答の深掘りができたりします。

2. 望む結果を出すためにプロンプトを工夫する

生成 AI は与えられたプロンプト(指示・命令)に従ってコンテンツの生成や回答を行います。ユーザーの意図に従った結果を生成するには、ユーザー側が提示するプロンプトの工夫も必要になってきます。以下に、効果的なプロンプトの例を示します。

- ・ **明確で具体的な質問をする**: テキスト生成 AI は、曖昧な指示に対しては、回答も曖昧になることがあります。そのため、具体的に質問したほうが、より適切な回答が得られます。
 - 悪い例: おすすめの本は?
 - 良い例: おすすめのビジネス書は?
- ・ **前提条件を与える**: プロンプトに前提条件を与えることで、テキスト生成 AI は、よりユーザーの意図に合わせた適切な回答を返すことができます。
 - 悪い例: 明太子について教えて
 - 良い例: 明太子について 100 字内で小学生がわかるように教えて

- ・ **オープンエンドな質問を避ける:** テキスト生成 AI は、オープンエンドな質問（回答が一つに絞れない質問）に対して、幅広い回答を返すことがあります。明確な回答が必要な場合は、質問を絞り込みましょう。
 - 悪い例: あなたについて教えて？
 - 良い例: あなたはどんな仕事をしていますか？
- ・ **逐次的な質問で情報を引き出す:** テキスト生成 AI に複雑な問題を解決させる場合、一度に全ての情報を入力するのではなく、段階的に質問を行って、情報を引き出すことが効果的です。
 - 悪い例: 東京から福岡への旅行プランを立ててください
 - 良い例: ①東京から福岡への交通手段は何がおすすめですか？
②福岡でおすすめの観光スポットを教えてください
- ・ **複数のアプローチを試してみる:** テキスト生成 AI が最初に提供した回答が十分でない場合、質問の仕方を変えてみることで、異なる視点からの回答や新たな情報が得られることがあります。
 - 例: ①経済の成長を促す方法は？
②経済成長を促す政策は何ですか？
③経済成長のためのイノベーションは？
- ・ **複数の回答を求めてみる:** テキスト生成 AI に複数案の回答を求めることで、望ましい回答を導き出す可能性が高まります。
 - 例: 福岡県のキャッチコピーを 30 個提示してください。
- ・ **生成 AI に質問をさせてみる:** 生成 AI は指示に従って回答を行います。指示と併せて生成 AI からの質問を受けることで、指示内容が具体化され、より意図にあった回答を返すことができます。
 - 例: ユーザー) ラーメンの説明文を作成して下さい。
作成における質問があれば受け付けます。
生成 AI) ラーメンの種類に指定はありますか？
説明文はどのような用途に使用しますか？

3. QT-GenAI の活用支援機能

前述した活用のポイントを踏まえても、容易には活用できない場合もあります。

QT-GenAI では目的に合わせたプロンプトのテンプレートを多数用意しており、生成 AI の活用を支援します。

以下に、テンプレートの一例を示しますので、参考にしてください。テンプレートは当県における活用範囲を限定するものではなく、あくまで活用の一例・ヒントと捉え、それ以外にも様々な業務への活用をご検討ください。

1. 文章作成

- ・ メール文章作成
- ・ 伺書・稟議書作成
- ・ プレゼンテーション構成の作成
- ・ FAQ 作成
- ・ 広告文作成

2. 文章編集

- ・ 文章校正
- ・ 専門家によるレビュー
- ・ 文章翻訳
- ・ 文章要約

3. アイディア出し・相談

- ・ ブレインストーミング
- ・ キャッチフレーズ作成
- ・ 事業実現に向けたアイディア出し
- ・ コーチング
- ・ 専門家による解説
- ・ 複数の専門家との討議

4. プログラミング

- ・ コーディング
- ・ エラーチェック
- ・ コード解説

5. プロジェクト管理

- ・ タスク洗い出し
- ・ タスク細分化
- ・ リスク洗い出し

6. その他

- ・ ツールの使い方の指南
- ・ クイズの作成
- ・ 類義語検索

ガイドライン対象外の生成 AI 使用について

1. ガイドラインで定めない生成 AI の使用を考える場合

原則として、本県行政事務で使用可能な生成 AI は QT-GenAI のみです。その他の生成 AI サービスの使用が必要と考える場合であっても、一度、情報政策課に相談するなど、極力 QT-GenAI を使用する方法を検討してください。

やむを得ずその他の生成 AI サービスの使用する場合には、前述までのガイドラインの内容に加え、以下の内容にも十分注意し使用してください。

2. 使用の際に注意すべきポイント

1. 約款型外部サービスの使用について

生成 AI サービスのうち、ChatGPT や Copilot のような約款型外部サービスについては「福岡県情報セキュリティ対策基準」に基づき事前協議が必要となります。詳細は「福岡県情報セキュリティ対策基準」を参照ください。

2. 生成されたコンテンツの取扱い

生成 AI にはテキスト以外にも、画像や音声・動画などのコンテンツを生成するものがありますが、その取り扱いについては、チャプター2.1.2「使用対象機能の限定」でも述べたとおり、著作権上の問題だけでなく、社会的感情についても考慮してください。

3. 機密情報の取扱い

生成 AI サービスに入力した情報は、生成 AI 自身の学習に利用されたり悪意のある第三者に盗み見られたりすることで、流出する可能性があります。機密情報が漏えいすると、個人や団体の権利や安全が脅かされるだけでなく、法的な責任も問われるおそれがあります。

また、近年では、ChatGPT や Copilot のように生成 AI の利用が目的のサービス以外にも、Web 検索や問合せチャットボットなど、主目的の補助機能として生成 AI が組み込まれているサービスも存在します。そのため、インターネッ

ト上のサービスの利用する場合には、利用規約を十分に確認し、原則として「機密性 1」および「機密性 2」の情報は取扱わないようご注意ください。利用規約は定期的に更新されることもあるため、常に最新の内容を確認しながら利用することが求められます。

約款型外部サービスの使用や、その際の機密情報の取扱いについては「福岡県情報セキュリティ対策基準」も併せて確認ください。

4. 生成内容の信頼性の確保

生成 AI が生成するコンテンツについては必ず使用者がその信頼性を確認し、責任を持って使用してください。生成 AI が生成したコンテンツの確認すべき観点はチャプター2.1.4「生成内容の信頼性の確保」を参照ください。

5. 問題・事故が起きた場合の責任

QT-GenAI 以外の生成 AI および生成 AI サービスを使用して起きた問題や事故については、本ガイドラインを定める生成 AI 検討プロジェクトチームでは責任を負いかねる場合があります。

そのため、使用する際にはそのサービスのメリットだけでなく、リスクも十分に把握・理解し、安全に配慮し使用してください。

謝辞

本ガイドラインの作成に際しましては、多くの方々からご協力をいただきました。中でも、九州大学大学院システム情報科学研究院 内田誠一教授、九州大学大学院法学研究院 成原慧准教授には、本ガイドラインの内容と方向性について、貴重なご意見とご助言をいただきました。この場を借りて心から感謝申し上げます。